

# 染色整理業における地球温暖化対策の取組 ～低炭素社会実行計画2015年度実績報告～

平成28年12月  
(一社)日本染色協会

# 目 次

1. 染色整理業の概要
2. 染色整理業界の「低炭素社会実行計画」概要
3. 2015年度の取組実績
4. 低炭素製品・サービス等による他部門での貢献
5. 海外での削減貢献
6. 革新的な技術開発・導入
7. その他の取組

# 1. 染色整理業の概要

- 主な事業

木綿等の天然繊維やポリエステル・ナイロン等の合成繊維の単一素材及び混紡・交織・交編素材からなる糸や織物・編物に対して、色・柄及び風合い(手触り)・機能性を付与する製造加工業。

- 業界の規模

企業数: 171社

市場規模: 約1,700億円

- 業界の現状

1990年以降の円高により、安い輸入繊維製品が国内市場に溢れて、国内の染色加工数量は減少の一途を辿ってきた。

しかし、最近3年ほどは円高が是正され、国内生産は下げ止まった。

現在、市況の停滞により、国内の生産量は伸び悩んでいるが、今後は、付加価値商品を中心に緩やかに拡大すると予測している。

## 2. 染色整理業界の「低炭素社会実行計画」概要

- 目標指標:CO<sub>2</sub>排出量
  - ＜2020年＞(2016年7月改定)  
CO<sub>2</sub>排出量を、1990年度比で53%削減する。
  - ＜2030年＞(2016年7月改定)  
CO<sub>2</sub>排出量を、1990年度比で51%削減する。
- 目標策定の背景
  - 新興国では、人件費の上昇や環境規制の強化により、製造コストは上昇。  
「J∞Quality」(織編・染色・縫製を国内で行った商品)等によって、国内品は見直される傾向。
- 前提条件
  - 事業部門(製造工程)に加えて、本社・営業所・研究所等の間接部門も対象。
- 2020年・2030年の生産活動量の見通し及び設定根拠
  - 国内市況の停滞により、2015年度の生産量は見通しの91%に、CO<sub>2</sub>原単位は見込みの96%に止まったため、2020年度生産量、CO<sub>2</sub>原単位を見直した。
  - 2030年は、'20年度比で生産量は約1割増加し、CO<sub>2</sub>原単位は約5%改善と予測。

### 3. 2015年度の取組実績(1)

- 2015年度の実績値

- ー生産活動量: 182,383万m<sup>2</sup> (基準年度比26%、2014年度比99%)
- ーCO<sub>2</sub>排出量: 111.7万t-CO<sub>2</sub> (基準年度比30%、2014年度比97%)
- ーCO<sub>2</sub>原単位: 6.12t-CO<sub>2</sub>/万m<sup>2</sup> (基準年度比114%、2014年度比98%)

- 進捗率

- ー2020年度目標: 132%
- ー2030年度目標: 138%

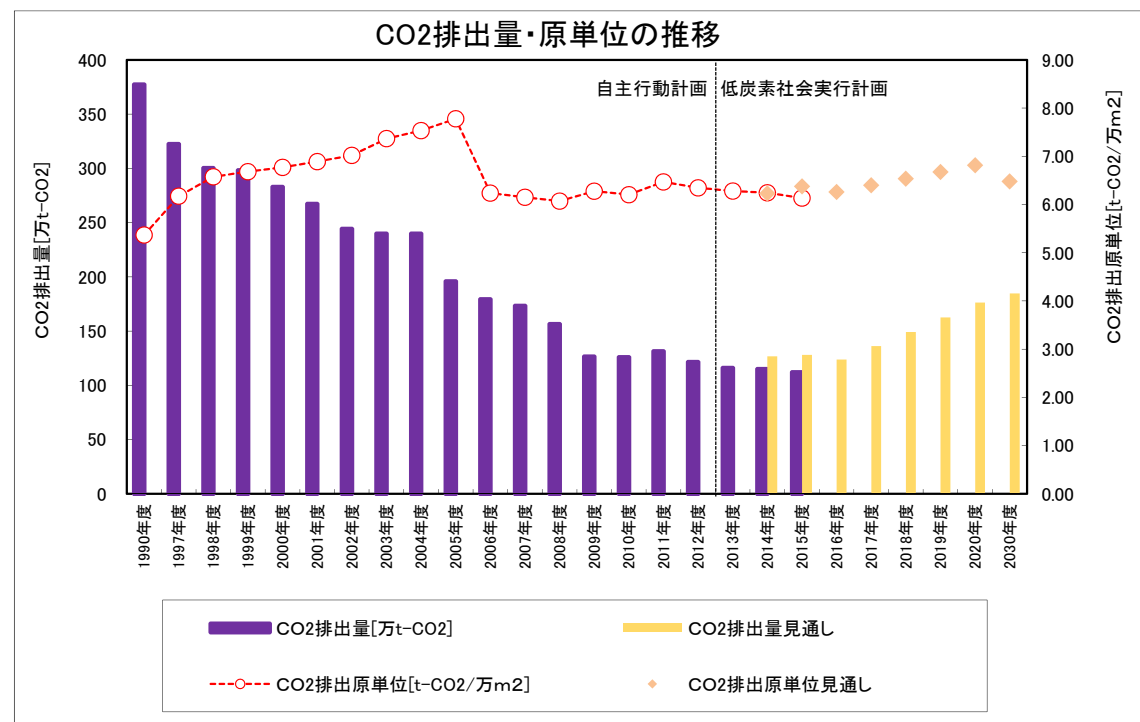
- 実績値についての考察

2015年度のCO<sub>2</sub>原単位は前年より僅か減少。  
原因は、電力の排出係数が、5.54から5.30変更されたため。

燃料種毎では、重油の使用が見直されている。  
今後、CO<sub>2</sub>原単位は、エネルギー原単位とほぼ同様の傾向を取ると予想。

’20年度に向け短期的にはエネルギー消費量、CO<sub>2</sub>排出量も増加と推測。

’30年度の長期的にはCO<sub>2</sub>原単位が下がるように、省エネルギー活動を実施して行きたい。



### 3. 2015年度の取組(2)

#### BATの導入推進状況

| 対策項目                | 対策の概要                                                                                                      | 削減見込量                                                                            | 普及率見通し                                                           |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 事務所及び事業所における照明のLED化 | 従来、事務所及び事業所においては、長形蛍光灯及び水銀灯等の照明が使用されてきた。<br>近年、LED照明の技術開発が進み、事務所等のオフィス分野だけでなく、事業所等の生産分野の照明にも代替することが可能となった。 | 2020年度<br>13,000t-CO <sub>2</sub> /年<br><br>2030年度<br>16,000t-CO <sub>2</sub> /年 | 基準年度<br>(2015年度)<br>14%<br>↓<br>2020年度80%<br>↓<br>2030年度<br>100% |

- ・従来の照明(蛍光灯、水銀灯)からLEDへ代替することにより、平均64%の省エネになる。
- ・ただし、高温多湿環境への適性、防爆仕様、染色物の色の再現性等には、まだ課題がある。  
(会員企業のアンケート調査より)

## 4. 低炭素製品・サービスによる他部門での貢献

| 低炭素製品・サービス等                                          | 削減実績<br>(2015年度) | 削減見込量<br>(2020年度) | 削減見込量<br>(2030年度) |
|------------------------------------------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| 夏季の「クールビズ」や冬季の「ウォームビズ」商品の製造段階において素材の特性を生かすように工夫している。 | データなし            |                   |                   |

## 5. 海外での削減貢献

- 特になし。



## 6. 革新的な技術・開発

### 発泡セラミック敷設によるCO2削減

| 革新的技術                                              | 導入時期     | 削減量   |
|----------------------------------------------------|----------|-------|
| 排水バイオマスケイク原料の保水性・断熱性発泡セラミックスを屋上に敷設して、空調の省エネを図っている。 | 2015年11月 | 0.5トン |

## 7. その他の取組(1)

- 業務部門での取組

- －目標：業界としての目標策定には至っていない。

- ・目標を設定している企業は、ごく一部の先進的企業に限られる。

- ・多くの企業において、照明の間引き、昼休みの消灯、冷房28℃/暖房20℃等の活動については、実施済みとの報告はある。

- 運輸部門での取組

- －目標：業界としての目標策定には至っていない。

- ・ほとんどの企業において、目標を設定するまでには至っていない。

- ・物流については運送業者への依頼がほとんどであり、各企業が関与できる部分は少ない。

- ・「JRコンテナ」を利用できるところは、「トラック輸送」より「JRコンテナ」の利用を心がけている。

## 7. その他の取組(2)

- 情報発信の取り組み

- ― 業界団体

- ・低炭素社会実行計画報告書を協会HPに公開
    - ・低炭素社会実行計画報告書を会員企業へ配布
    - ・省エネ機器・設備メーカーによる講演会の実施

- ― 個別企業

- ・環境報告書CSR報告書に、地球温暖化ガス排出量を公表
    - ・ISO14000認証取得